

UUCollege ・ Newsletter

No.5

UU カレッジの受講の理由に、教養を身に着け付けたいという場合もあるかと思いますが、今号では、廣瀬先生、田巻先生に「**教養とはなにか**」というテーマで普段のお考えを寄せていただきました。

コーディネーター 廣瀬 隆人



ChatGPTでも「教養」は「豊かな人間性や深い理解を含む、幅広い教養や教育を指す言葉」として解説されている。ここでは、かつて学部学生に説明してきたものを紹介しておくこととする。学校教育での学習は、主として一つの「正解」を出すことに力を注いできた。ところが現実の社会は、「正解は一つではない」のだ。変化の中で生きていくためには、「正解」を求める学習だけでは対応できない。いくつもの正解の中で、他の人々の考え方を聴き、意見の違いを理解して、自分の意見も話して、共生していける力をつけておかなくてはならない。

「物ごとにはいろいろな見方や考え方があるのだ」「正解はいくつもあるのだ」ということを学ぶ必要がある。専門的な知識や技術を学ぶだけでは、予想もできない困難に立ち向かうことができない。多様な学問や文化、芸術を幅広く学ぶことによって、専門知識や技術を十分に生かすことができる。同時に、多様な見方ができるというのは、「他の人の言っていることを鵜呑みにしない」ということでもある。どんな偉い人が言ったことでも、必ずしも正しくないかもしれない。ある時代のある場所では正しくても、ほかのところでは通用しないかもしれない。やはり、「全ては疑い得る」(Karl Marx)。である。だからすぐに信じてしまうのではなく、自分の頭で考え、自分の心で感じ、自分の言葉で納得し、自主的に判断し行動する人になること。これが主体形成。自分で判断するためには、多くのことを学ばなくてはならない。リベラルアーツはさまざまな学問領域を積極的に学ぶことで、現実の社会で活躍し、豊かな人生を送ることができる総合力のある人間の育成を目指している。そのために重要なことは、自分の経験を問い直すということだ。これまでの経験によってなんとかは生きていけそうだが、より豊かに生きるためには、自分の経験を批判的に省察することだ。そして、学び、アップデートするしかない、経験に新しい知識を加えた更新プログラムである。上書き保存したら良いのか、ゴミ箱に入れるのが良いのかかわからないときもあるが、とりあえずはフォルダに保存しておこう。UUカレッジは更新プログラム実施中なのかもしれない。自分をバージョンアップし、リノベーションしている。新しい自分に出会うのは結構楽しいものだ。

メンター 田巻 松雄



「問題意識は、あるテーマやそれについて提示された結論が、研究者自身にとって、あるいは社会にとって、あるいは社会学にとってどのような意味を持つかを問いかける。また問題意識は研究テーマや目指されている理論的結論との関連性を意識しながら、必要なデータの選択を可能にする。したがって、問題意識のない社会学研究は、そもそも存在する価値がない」(『問題意識と社会学研究』、24ページ)。「そして、・・・不滅のメッセージは、まさに、社会学研究には問題意識が何よりも重要であること、そしてそれは社会的現実にたいする関与を前提としなければならない」(同上、50頁)。

大学時代の恩師が絶えず投げかけてきたことは「問題意識」の大事さであった。私は、2022年3月に行った最終講義で「社会学的・国際学の問題意識をベースとする10のメッセージ」と題して、様々な社会的事実への関与を通じて培ってきた問題意識や人間としての在り方・生き方に関する「知」を振り返り、発信した。列举すれば、「1 緊張（私は実はすごく緊張している）」、「2 こんな稼業を笑わば笑え」、「3 適格者主義ではなく、受け入れて育てる」、「4 声なき声に代わり発信する」、「5 多様な学びの場は地域で支える」、「6 始めることが一歩で、やりながら考える」、「7 選べない「偶然」にどれだけの責任を感じるか」、「8 『生の偶然性』への自覚」、「9 弱者と呼ばれる人々の人権と秘められたパワーに対する尊敬を土台にした寄り添いと応援」、「10 多文化共生とは、仲良くすることをめざすのではなく、殺しあわない関係の構築をめざすこと」となる。これらのメッセージは、各人にとっての教養の意味を考える一助になると思う。退職後2年の経験を踏まえ1つ追加するなら、「11 考えてみたい力ー『待つ力』」となるだろうか。1つ1つのメッセージやメッセージ総体としての意味や課題については、ぜひ対話できることを願っている。

いよいよ新企画であるメンターゼミがスタートいたしました。宇都宮大学元教員であるメンター・コーディネーターの現代社会の課題といってもよいホットなテーマがならんでおります。発表や活発な議論等を通して、自主的な学びの掘り下げにお役立てください。

(受講料:無料 期間:R6 年度前期内の予定ですが一部ゼミは後期も継続いたします。)

- 田巻ゼミ テーマ「公立・自主夜間中学の現代的意義と課題」
- 伊東ゼミ テーマ「地震の科学と地震防災」
- 川田ゼミ テーマ「エネルギーと私たちの未来」
- 廣瀬ゼミ テーマ「地域づくりと成人教育」 特別講座「アイヌ文化を対談と実物で学ぶ」

メンターゼミの様子

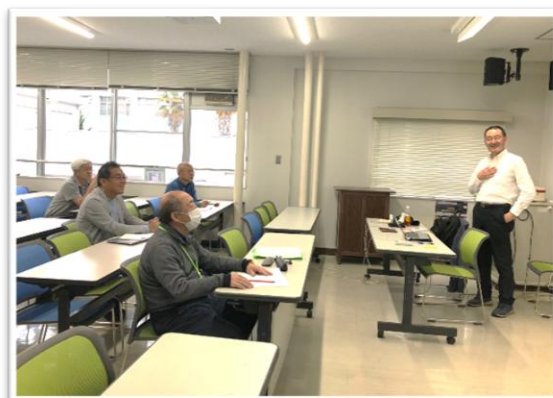
伊東ゼミ



田巻ゼミオリエンテーション



川田ゼミ



廣瀬ゼミ



UUカレッジの楽しみ ～メンターゼミの醍醐味～

メンターゼミに参加している受講者から、上記テーマでゼミの様子や感想等をうかがいました。

田巻ゼミ「公立・自主夜間中学の現代的意義と課題」について 1期生 長谷川 道夫

メンター先生によるゼミが開催される1年程前から事務局の廣瀬先生に対して「メンターの先生の講義を拝聴したい。」と個人的に声掛けさせて頂いておりました。廣瀬先生のお答えは「うん。俺も今少し考えているんだ。ちょっと待って」というものでした。第1期の聴講の時から、廣瀬先生の「うん。今いろいろ考えているから…」というコメントは何度か伺いました。受講者にとって嬉しい新しい場面を用意して下さっている事を経験知として知っておりましたが、今回のメンターの先生によるゼミは待望の結果でした。しかも、講義料が0円というのはなんと太っ腹です。

さて、前置きが長くなりましたが 田巻先生のテーマに手を挙げましたのは、2019年12月にUUカレッジ事務局からの紹介で「夜間中学映画」を5C21教室で見た時に講演してくださいました先生の話しを伺ったという事と、映画「学校」を見ていた事が元にありました。そして実際にゼミが始まってみると、大いに驚いた事がありました。それは同テーマのゼミを2班に分けて行うとの事でした。参加者の希望日程が合わないからと、2班に分けてのゼミを用意して下さった姿に田巻先生の人柄を見ると同時に、夜間中学をボランティアで長年継続して社会（文科省/教育委員会）と戦って来た原点を見る思いでした。受講しているゼミは、先生と八木澤氏と私の3人だけ。まるで個人レッスンです。先日、八木澤氏と時間待ちの会話では「2人きりではお互いに休めないね…」と。(ちなみに、もう1つの班は受講者5名で開催しています。)夜間中学の現状を知る為に準備して頂いた資料に目を通し始めたばかりですが、一般的な日本人の目に触れない場所で真剣に頑張ろうとしている人と、その人に寄り添いたいと思うスタッフの生きざまにちょっと心が震えております。

先に2班に分けてと記しましたが、廣瀬先生も私たちの都合を考慮して同様の対応をとって下さっています。また伊東先生・川田先生のゼミもと欲張って受講しております。

伊東ゼミ「地震の科学と地震防災」について 1期生 八木澤 恭子

伊東先生の「地震の科学と地震防災」のゼミを受けています。毎回資料をプリントでいただけるので、書き込みをしながら受けられるのは、アナログ派としてはうれしいことです。

「地球の近くとリンゴの皮はほぼ同じ厚さになる。」から始まって、地球の外観や、地震の科学についてわかりやすく解説していただいています。次回から地震災害・地震予知・地震防災について学ぶので、自分は地震災害にどう対処したらよいかを考えていきたいと思います。

川田ゼミ「エネルギーと私たちの未来」について 2期生 小田川 典子

理系の思考回路を持たない私が「the 理系」という皆様に交わってエネルギー問題を考えるゼミに参加しています。限りあるエネルギー、限りある地球を目の当たりにして、危機感を強くしました。

ゼミに参加することで、近い将来完成するであろう「核融合」(クリーンエネルギーをえられる技術)に期待しながらも、「今、なにをすべきか」と真剣に考える新しい自分に出会いました。

廣瀬ゼミ「地域づくりと成人教育」について 1期生 中谷 竹代

「すぐに役立つことは、すぐに役にたたなくなる」というテーマのお話でした。「学び」の姿勢を教えてくださいました。廣瀬先生のお話は、今まで見えていた風景に色が付き、風が吹きこんだようです。豊穡の海に泳ぎ出るときに伴走して下さる先頭者のようでした。次回もとても楽しみです。